



平井 健之 先生

経済社会が直面するさまざまな課題に対して、政府や地方自治体に求められる役割は多岐にわたっています。私の専門分野は、経済学のなかでも、政府や地方自治体の経済活動を分析対象とする「公共経済学」という学問分野です。皆さんのなかには、将来は国や地方自治体の政策立案に携わり、国や地域社会の活性化に貢献したいと思う人もいることでしょう。経済学を学ぶことにより、現実の経済問題を正しく理解し、それにどのように対応すればよいかを判断するための基本的な考え方を身につけることができます。そのような能力が社会で評価されるようにともに学んでいきましょう。

経済理論コース

現実の市場経済システムを体系的に学習することを通じて、暮らしと経済に関わるさまざまな問題まで分析できる論理的思考能力を育成します。

想定される進路

国・地方自治体
企業の調査研究部門
大学院進学

政策・制度コース

経済学や法学に関連する政策科目を学びながら、市場経済の現実的な態様および諸制度の背後にあるルールに対する洞察力を高めます。

想定される進路

国・地方自治体
金融機関の調査管理部門
大学院進学

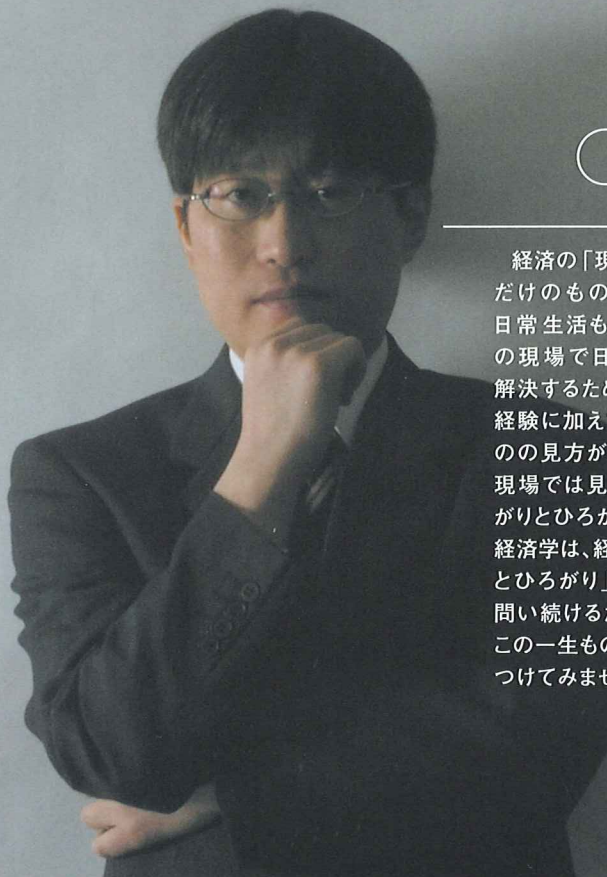
統計・情報コース

授業・演習等においてパソコンを積極的に活用し、情報化社会に必要なとされる高い情報処理能力をもった人材を育成します。

想定される進路

企業の統計調査部門
システムエンジニア
大学院進学

学部創設以来の伝統をもつ本学科は、国際化・情報化・市場化の進展に伴い複雑多様化する現代経済を理論的・数量的に解明し、直面する諸課題に対して、国際的視野と科学的視点から、実行可能な政策を提言できる人材育成を目標としています。このような本学科の教育目標を達成し、さらに専門分野の自覚と卒業後の進路選択を支援するため、「経済理論コース」「政策・制度コース」「統計・情報コース」の3つのコースを用意しています。

A portrait of Mr. Hiroshi Ikeda, a man with glasses and a dark suit, resting his chin on his hand in a thoughtful pose.

沖 公祐 先生

みなさんは、経済学という学問を人間を数字として扱う無味乾燥なものだと思っているかもしれませんが、確かに経済学では数字を扱いますが、それは現代社会があらゆるものを数字化してしまう貨幣というものを不可欠の媒介としているからなのです。私たちは数字と無縁の生活を送ることはできません。私の担当する政治経済学では、こうした現代社会の特徴を明らかにすると同時に、なぜそのような特徴をもつに至ったのかを考えていきます。

星野 良明 先生

経済の「現場」はニュースで見聞きするだけのものではありません。私たちの日常生活も経済の現場なのです。経済の現場で日々発生する事件を見極め解決するためには、現場に関する知識や経験に加えて、いわば「会議室」的なものの見方が必要です。なぜなら、経済は現場では見えない地球レベルの「つながりとひろがり」を持っているからです。経済学は、経済の目に見えない「つながりとひろがり」を想像し「なぜのなぜ」を問い続けるためのツールを提供します。この一生もののツールを経済学科で身につけてみませんか？

経済学科

学科基礎科目

統計学Ⅱ、経済数学、ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ、政治経済学Ⅰ、計量経済学Ⅰ、経済政策、財政学、社会政策、金融論Ⅰ

コース科目

政治経済学Ⅱ、応用ミクロ経済学、経済動学、現代資本主義論、数理経済学、一般均衡論、金融論Ⅱ、公共経済学、福祉経済論、国際経済学、金融政策、情報処理、計量経済学Ⅱ、情報科学総論、データベース、マルチメディア処理、経済統計、応用計量経済学、知識処理、プログラミング、情報システム論 など